

3/1 『神の栄光と永遠のいのち』（ヨハネ17：1～5）

長谷川望牧師

- * 「わたしはすでに世に勝ちました」ということばで弟子たちにたいする訣別の説教を閉じられた主イエスは、そのあとすぐに父なる神に祈られた。まず、ご自身に関する祈り、次に弟子たちに関する祈り、そして弟子たちによって信じるようになる人たちに関する祈りである。
- * ご自身に関する願い。これらのことを話してから、イエスは目を天に向けて言われた。「父よ、時が来ました。子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。（ヨハネ17：1）「時が来ました」とは十字架の時が明日に迫っているということ。「子の栄光を現わす」とは、イエスが十字架について死に、地上に来られた目的と使命を確実に果たすことである。「子があなたの栄光を現わすために」とはイエスの十字架と復活が成就することは、父なる神の計画であり、みこころを為すことを示している。
- * あなたは子に、すべての人を支配する権威を下さいました。それは、あなたが下さったすべての人に、子が永遠のいのちを与えるためです。永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。（17：2～3）主イエスに与えられたすべての人を支配する権威は、「永遠のいのち」を与えるためと言われる。「永遠のいのち」の定義は「父なる神を子なるイエスを知ること」である。「知る」とはただ頭の知識として理解することではない。一体となるほど神と交わる」ということである。そのためには、主イエスを信じ、私の全存在をかけて愛し、信頼し、つながって生きていくということが「知る」ということではないか。イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父の御許に行くことができません。」（ヨハネ14：6）。
- * 「永遠のいのち」は「あなたが（父）がくださったすべての人に」与えられる、とイエスは言われる。永遠のいのちは主イエスを信じた時から与えられ、死んでからも、世の終わりまでも続くいのちである。神に選ばれて、神のものとなった者が受ける最大の恵みは、その「永遠のいのち」を約束されているということである。